

氏 名	高永 都衣
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 7111 号
学位授与の日付	2024 年 9 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Small-for-Gestational-Age Status and the Risk of Kawasaki Disease: A Nationwide Birth Cohort in Japan (在胎不適當過少児と川崎病のリスク： 日本における全国規模の出生 コホート調査)
論文審査委員	教授 神田秀幸 教授 塚原宏一 准教授 岡田あゆみ

学位論文内容の要旨

川崎病 (KD) の原因は不明であるが、感染症との関連が示唆されている。在胎不適當過少児 (SGA) は感染症リスクが高いが、KD との関連は不明である。本研究では、2010 年 5 月の特定の 2 週間に日本で生まれた全新生児を対象に厚生労働省が実施した「21 世紀出生児縦断調査 (2010 コホート)」(n=34,579) のデータを用いて、SGA が KD のリスクを増加させるかロジスティック回帰分析を用いて検証した。SGA は出生体重が在胎週数相当の 10 パーセンタイル未満と定義し、転帰は KD による生後 6-30 ヶ月の入院の有無とした。KD 入院児 231 人のうち 22 人(9.5%)が SGA であった。SGA は KD による入院のオッズ比 (OR) を増加させなかった (調整 OR 1.12、95%信頼区間 0.71-1.75)。早期保育・早産での層別解析でも同様の結果であった。

論文審査結果の要旨

本研究は、在胎不適當過小児であることが川崎病による入院のリスクとなるのかについて、全国調査をもとに検討を行った。結果として、在胎不適當過小であることが、児および母体の要因を調整した後で川崎病入院のリスクを高める傾向はみられたが、統計的有意差はみられなかった。

審査員から、川崎病発症と感染症罹患の背景、コホート研究の長所、想起法による入院の把握の妥当性などについての質問がなされた。回答として、感染症罹患の詳細な検討ができないことが本研究の限界であること、コホート研究で因果の時間性が確保され入院が確認できる大規模な全国調査だったこと、小児期の川崎病による入院は大きなイベントであり入院の漏れはみられないと考えられることなどの回答がなされた。在胎不適當過小児と川崎病による入院との関連について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。発表は的確で、周辺知識の学習も十分に認められた。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。